



2026年4月10日

各 位

会 社 名 株式会社シー・ヴィ・エス・バイエリア  
代表者名 代表取締役社長 泉澤 摩利雄  
(東証スタンダード市場・コード2687)  
問合せ先 執行役員管理本部長 寺原 房江  
(電 話：043-296-6621)

投資有価証券売却益及び投資事業組合運用損の計上、  
特別損失（減損損失）の計上及び繰延税金資産の取り崩し並びに  
2026年2月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026年2月期（2025年3月1日～2026年2月28日）において、投資有価証券売却益を営業外収益に、投資事業組合運用損を営業外費用に、それぞれ計上することに加え、特別損失（減損損失）の計上及び繰延税金資産の取り崩しを行うとともに、最近の業績動向を踏まえ、2025年10月10日に公表した2026年2月期の業績予想値を、下記の通り修正しますので、お知らせいたします。

記

1. 投資有価証券売却益の計上について

(1) 投資有価証券売却の理由

当社は、投資先企業の成長に伴い投資目的が達成されたことから、保有していた有価証券について投資回収を実施することにいたしました。

(2) 投資有価証券売却の内容

- ①売却株式：当社が保有する有価証券1銘柄
- ②売却時期：2026年1月～同2月
- ③投資有価証券売却益：12百万円

2. 投資事業組合運用損の計上について

当社が出資する投資事業組合において、投資先企業が主要事業を譲渡したことにより、事業継続が見込まれない状況となったため、当該投資先の評価額の見直しを行いました。その結果、当期に運用損が発生する見込みであり、当社は当該組合に係る持分損失として93百万円を計上する見通しです。

3. 特別損失（減損損失）の計上について

当社が投資目的で保有する建物等固定資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当該資産の将来キャッシュフロー及び回収可能価額を検討した結果、帳簿価額の回収が困難であると判断し、減損損失として617百万円を計上する見通しです。

4. 繰延税金資産の取り崩しについて

当会計年度の業績動向及び今後の事業計画等を踏まえ、将来の課税所得の見積もりを慎重に見直しました結果、一部の繰延税金資産の回収可能性に不確実性が生じたため、当会計年度末において繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額として402百万円を計上する見通しです。

5. 業績予想数値の修正について

(1) 2026年2月期通期連結業績予想数値の修正 (2025年3月1日～2026年2月28日)

	営業総収入	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (2025年10月10日)	百万円 8,031	百万円 167	百万円 89	百万円 △44	円 銭 △8.96
今回発表予想 (B) (2026年4月10日)	7,902	130	△64	△1,140	△230.91
増減額 (B-A)	△129	△37	△153	△1,096	
増減率 (%)	△1.6	△22.2	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2025年2月期)	7,822	421	385	1,123	227.51

(2) 2026年2月期通期個別業績予想数値の修正 (2025年3月1日～2026年2月28日)

	営業総収入	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (2025年10月10日)	百万円 3,842	百万円 27	百万円 △22	百万円 △113	円 銭 △22.90
今回発表予想 (B) (2026年4月10日)	3,773	15	△150	△1,174	△237.88
増減額 (B-A)	△69	△12	△128	△1,061	
増減率 (%)	△1.8	△44.4	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2025年2月期)	3,444	279	296	1,089	220.78

(3) 修正の理由

2026年2月期通期個別業績につきましては、ビジネスホテル・ユニット型ホテルにおいて、秋の行楽シーズン以降で予約獲得が順調に推移し、業況の回復が一定進みましたが、アウトドアリゾート施設の回復には遅れが見られ、平日並びに冬季期間の営業体制や稼働に課題が多く、売上高・営業利益ともに前回予想値を下回る見込みとなりました。また、前述1.の営業外収益と、同2.の営業外費用を反映することで、経常利益は前回予想値に対し128百万円の減益となり、経常損失150百万円を計上する見込みであるほか、前述3.の特別損失と、同4.の繰延税金資産の取り崩しを反映することで、当期純利益は前回予想値に対し1,061百万円の減益となり、当期純損失1,174百万円を計上する見込みとなりました。

2026年2月期通期連結業績につきましては、マンションフロントサービス事業において、不採算物件の整理加速による売上高の減少や、慢性的な人手不足や物価高騰を背景とするコストの上昇の影響を受けながらも、業況は安定的に推移したものの、個別業績の影響を大きく受ける結果となり、売上高・営業利益ともに前回予想値を下回る見込みとなるほか、個別業績と同様の理由から、経常利益は前回予想値に対し153百万円の減益となり、経常損失64百万円を計上する見込みであるほか、当期純利益は前回予想値に対し1,096百万円の減益となり、当期純損失1,140百万円を計上する見込みとなりました。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づき、作成したものです。今後様々な要因によって、予想数値と異なる可能性があります。

以上